

## 平成26年度 第3回川崎市教育改革推進協議会（摘録）

日 時 : 平成26年11月18日（火）18:00～20:00

場 所 : 教育文化会館4階 第1学習室

出席者 : 小松委員、田中委員、大下委員、伊藤好子委員、杉村委員、松本委員、齊藤委員、山崎委員、伊藤民子委員、宮津委員、巴委員、門倉委員

（事務局）渡邊教育長、原田総務部長、小田嶋教育改革推進担当部長、丹野教育環境整備推進室長、高梨職員部長、芹澤学校教育部長、望月中学校給食推進室長、渡部生涯学習部長、江間総合教育センター所長、橋谷教育改革推進担当課長（共生・共育）、田中教育改革推進担当課長（区教育・調整）、増田教育改革推進担当課長（高校改革）、古内教育環境整備推進室担当課長（施設マネジメント）、田中教育環境整備推進室担当課長（計画推進）、渡辺指導課長、上杉指導課担当課長（支援学校担当）、栗山指導課担当課長（小中高等学校支援教育）、市川指導課担当課長（指導・調整）、杉本健康教育課担当課長（学校体育・安全）、佐藤カリキュラムセンター室長、榎原カリキュラムセンター担当課長、樋口情報・視聴覚センター室長、増田特別支援教育センター室長、尾立教育相談センター室長、野本企画課長、岡野企画課担当課長ほか

欠席者 : 高木委員

傍聴者 : なし

司 会 : 野本企画課長

### 〔配布資料〕

資料1 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」（案）

資料2 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画」策定スケジュール

資料3 平成26年度第2回川崎市教育改革推進協議会摘録

参考資料1 川崎市教育改革推進協議会設置及び運営要綱

参考資料2 川崎市教育改革推進協議会名簿

### 〔次第〕

1 開会

2 教育委員会あいさつ（教育長）

（協議題）

3 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」（案）について  
（学校教育分野を中心に）

資料1、2

## 協議題 次期「かわさき教育プラン第1期実施計画 素案」(案)について (学校教育分野を中心に)

(企画課長説明)

### 社会教育分野の修正について

- 委員
- ・ 前回の意見を踏まえ、よい形で修正されていると思う。
  - ・ 基本政策Ⅵの政策目標に、「子どもたちが地域の一員として」とあるが、できればここも「子どもや若者たち」とするとよいと思う。

(教育改革推進担当課長(共生・共育)説明)

### 「基本政策Ⅰ 人間としての在り方生き方の軸をつくる」について

(指導課長説明)

### 「基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばす」について

- 委員
- ・ 例えば、基本政策Ⅰ、Ⅱの両方の現状と課題に「規範意識」が書かれているなど、基本政策ⅠとⅡが重複しているように感じられる。政策目標も基本政策1は「社会で自立していきっていくための」、基本政策2は「社会を生き抜くために必要な」と似ている。はじめに総論として生きる力について論じ、次に大事にしているキャリア教育としてはどうか、基本政策ⅠとⅡは逆でもよいのでは。
- 事務局
- ・ 新しいプランでは、キャリア教育をその中核に位置づけたいという強い思いがある。学校教育全体をキャリア教育の視点から改善を図っていききたい。生きる力として身に付けたものを社会人や職業人としてどのように発揮していくのか。その心の姿勢を育てていきたい。
- 委員
- ・ 基本政策ⅠとⅡの関係が書かれ、二つの接続がわかるとよい。
- 委員
- ・ 教育基本法では、教育の目的は、人格の完成とされている。「基本政策Ⅰ 人間としての在り方生き方の軸をつくる」は、教育が目指すものと結びつきが強いのだろう。
- 事務局
- ・ 学ぶことの意義の理解や学ぶことを自分の中で価値づけていくという積み重ねが人間としての成長には大変重要であると考えている。
- 委員
- ・ キャリア在り方生き方教育を進める上で、学校の研修などはどのようになっているのか。
- 事務局
- ・ 学校長などを対象に、研修を重ねてきている。キャリア教育の手引きを作成しているところであり、各学校に配布し、キャリア教育について正しい理解をしてもらう必要がある。
  - ・ 学校の経営方針など大きなところからキャリア教育の視点をもってもらい、学校教育全体の改善を図っていききたい。
  - ・ 来年度は、推進協力校で実践し、平成28年度から全校で実施する予定である。
- 委員
- ・ 校長会でも次年度、基本方針や活動の重点に取り入れていこうという話が出ている。
- 委員
- ・ キャリアノートだけでなく、既存のツールを使うのもよいのでは。
- 委員
- ・ 互いの違いを認め合うことが書かれていない。互いを認め、どう協働していくかということが大事である。
- 事務局
- ・ 趣旨は理解している。大きなところで、基本目標にも共生・協働を掲げている。
- 委員
- ・ 基本政策Ⅱの参考指標は、学力に関することに偏りがあるようだ。もっと豊かな心に関

することも入れてほしい。

- 委員 ・言葉の使い方として、「グローバル化」と「グローバル人材」は同じではない。例えば「グローバル人材の育成」について外国語教育の推進だけでよいのか。もっと正義、平等、人権などが含まれ、地球規模の問題意識を持った人材を育成することが必要ということではないか。
- 委員 ・ICTの使い方については、考える必要がある。韓国の状況を見てきたが、タブレットの授業はだんだんなくなってきているようだ。物事を確かめるツールではあるが、子どもたちが理解できたかというとできていない。
- 委員 ・市としての幼児教育施策について書かなくてよいのか。
- 委員 ・社会教育の部分にも幼児教育に関するところがないようだが。
- 事務局 ・次期教育プランの対象分野は、教育委員会の所管部分としており、首長部局に移管した文化・スポーツ同様、幼児教育の基本的なあり方については教育プランには記載していない。
- 委員 ・基本政策Ⅱのリード文冒頭に「義務教育9年間」とあるが、幼稚園等と小学校の接続や、高校に関することはどうか。
- 委員 ・将来的に川崎は外国人労働者の増加が見込まれるだろう。外国からきた子どもに対する学校での対応はどうか。10年計画であれば、踏み込んだ施策を考えていく必要がある。
- 事務局 ・基本理念や基本目標は10年を見据えているが、第1期実施計画の部分は平成27から29年度までの3年間の計画としている。今後、状況の変化をみながら、各計画期間の施策を検討していく。
- 委員 ・道徳教育の推進とあるが、道徳教育に関する事務事業はないのか。
- 事務局 ・道徳教育は、学校教育全体の中で行っているため、事務事業という形ではあえて位置付けていない。
- 委員 ・「小学校から12年間の系統的な「キャリア在り方生き方教育」を通して」とあるが、途中から私立に進む場合もあるだろうし、結びついてこない。
- 委員 ・「授業がわかる、どちらかといえばわかる」のグラフについて、小学校のみの記載になっているが、何か意図があるのか。中学校でも大切なことなので、載せた方がよいのでは。
- 事務局 ・小中両方載せるようにしたい。
- 委員 ・基本目標について、施策になると「自立」ばかり目立つように感じる。「共生・協働」についても施策でもっと触れた方がよい。

(指導課担当課長(小中高等学校支援教育)説明)

### 「基本政策Ⅲ 一人ひとりの教育的ニーズに対応する」について

- 委員 ・インクルーシブ教育システムについてよく言われるが、内容について教職員の理解が不十分である。具体的なイメージがわかりやすく書かれているとよい。
- 委員 ・「すべての子どもが必要な支援を受け、できる限り同じ場で学ぶ」とあるが、ただ同じ場にいればよいわけではなく、そのための方策が必要となる。「第2期特別支援教育推進計画に基づく」とあるが、小中高の先生の理解を深めるためにも教育プランでも丁寧に記載してほしい。
- 委員 ・特別支援学級を希望せず、普通学級にいる発達障害をもつ子どもについては、支援が行き届きにくいとその書き込みが薄い。違いを認め合うということを書き込んでほしい。
- 委員 ・ダイバーシティとインクルーシブ教育の違いは明確に書いた方がよい。川崎のインクル

ーシブ教育の特徴を出した方がよい。

- 事務局 ・インクルーシブ教育システムのもとで行われる教育を「支援教育」と名づけている。障害の有無にかかわらず、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援を行っていく。特別支援教育は障害のある子どもたちに適切な支援を行っていく。
- 委員 ・支援教育の推進の中に、経済的理由や外国人の児童生徒に対する支援も含まれるのであれば、「障害の有無にかかわらず」ではなく、「障害の有無や国籍のいかんなど、個人的な条件にかかわらず」のようにしないと内容と合わない。
- 委員 ・参考指標では、お互いの違いを認め合うなど、基本目標にある「共生・協働」に関することも入れるとよい。
- 委員 ・学校現場では、子どもに関する複雑で多様な課題が多くある。一人ひとりのニーズや保護者の教育相談に迅速に対応できる体制づくりということは求められており、児童支援コーディネーターの専任化は、大変ありがたいと思っている。
- 委員 ・高等学校に関する記述で、「就労支援を充実」とあるが、どのようなものをイメージしているのか。現状にあっているか。

(教育環境整備推進室長説明)

#### 「基本政策Ⅳ 良好な教育環境を整備する」について

- 委員 ・スクールガード・リーダーの配置計画はどのようになっているのか。
- 事務局 ・今年度増員し、20名配置しているので、今後状況をみていきたい。
- 委員 ・避難所機能強化について、関係局と連携とは。
- 事務局 ・教育プランでは、避難所機能として、トイレやライフラインなどに関する整備を行っている。
- ・避難所運営については、危機管理室や区役所で調整を取りながら進めていく。

(教育改革推進担当課長(区教育・調整)説明)

#### 「基本政策Ⅴ 学校の教育力を強化する」について

- 委員 ・学校は、若手が多い。40代が少ない。若手に対して、センター等できめ細かく指導してくれており、力をつけてきている。
- 委員 ・ミドルリーダーは養成しづらく、大きな課題と認識している。指標以外の部分、数字で左右されない施策についても学校では考える必要がある。
- 委員 ・学校の中でもOJTを意識していく必要がある。
- 委員 ・50代の研修の場が少ない。
- 委員 ・施策1は「学校運営の自主性、自律性の向上」になっているが、内容は、地域や保護者との連携について書かれている。「地域・保護者との連携の推進」などの方がよいのでは。
- 委員 ・ミドルリーダー世代がやがて管理職となってくる。なり手が足りるのか、年齢構成の記述と絡めて書いてもよいのでは。

#### 全体を通して

- 委員 ・基本政策ⅠからⅧ全体をつなげるストーリーを書けるとよい。
- 委員 ・現行プランにないキャリア教育や支援教育については、学校現場や市民にもわかるようにしてほしい。

## スケジュール

委員 ・1月の教職員との意見交換とは具体的にはどのようなことか。

事務局 ・校長会等との意見交換を考えている。